

つ
継ぐ梅に告げし逢瀬の歌垣は
おうせ うたがき
西海の里さと桜の頃ぞ

令和五年三月八日

大中臣正比呂



貫い受けた紅梅が咲きそうだ。
肌寒き高原に開花し、そして散る頃は
海近き町にはもう桜が満開だろう。オーイ！